一橋陸上競技倶楽部理事会議事録

日時　：　2019年12月14日（土）　14:30～16:30

場所　：　如水会館　５階　会員会議室

出席者（敬称略）：

（理事会）浜田、岩瀬、大鳥羽、井田、西、西脇、伊丹、定成：建部監事、後藤顧問

（学生側）清崎新主将、津々新副将、谷新会計、高橋津田塾新主将

1. 学生側新幹部自己紹介、OBOG側自己紹介

　　学生側幹部の体制が新たになったので自己紹介をした。OBOG側も自己紹介。なお、学生側からは一橋と津田塾の新幹部の顔写真付きの連絡先一覧表を配布していただいた。

２．報告事項

1. 今年度決算予想の概要について

会計担当大鳥羽理事から資料に基づいて報告。要点としては、年会費収入は、会費額を昨年度までの一律1万円から今年度は1万円を超える額を篤志として納めていただける方を歓迎する形に変更したことに因り、当初予算340万円を上回る366万円（12月11日現在）となった事、また、年間の収入と支出においても収入合計3,875千円に対し支出合計3,775千円（但し12月11日現在）となり、足が出ることなく締められる見込み。また、「用器具の管理については帳簿を付けてきちんと管理してほしい。」旨強く申し添えがあった。昭和44年卒の先輩から苦言があったとのこと。

1. OBOG訪問・年会費の徴収状況と今後の進め方について

会費担当井田理事から資料に基づいて報告。今年のOBOG訪問対象者数107名に対して実際に訪問できたのが52名と半数に届かなかった。OBOG訪問の本来的主旨はOBOGと現役部員との親しみ感を高める点にあるが、年会費未納者から会費を集めることを第一義に捉えられた節がある。来年度は本来の主旨に立ち返って展開してほしい旨を学生側にお願いした。来年度はOBOG訪問をできるだけ前倒しで展開できるようにしたい。要検討事項。

「振込み」、「OBOG訪問での集金」、「如水会カード引落し」、全ての経路による12月11日現在での会費納付状況は、317人から366.2万円という数字。来年度は、母校陸上部愛が強い大先輩方の人数、昭和42年以降卒会員の人数と想定納付率、さらに卒業後4年以下の超若手OBOGからの徴収推進、ちなみに今年は卒後4年次層で14～15人も未納状態で、来年度はこうした状態を徹底的に改善するなどを考慮し、来年度の会費収入予算を380万円としてはどうかと提案。これについて浜田会長も「できる数字だと思うし、完遂すべき数字だ」との言葉があった。また、年明けに未納者に対して再度督促状を送付し、その督促状の文面に「この督促状を受けても会費を支払っていただけない場合はアスレティックフロイントの送付はしない。」旨を書き添えるつもりだと浜田会長より発言有。

「アスレティックフロイントの送付が止められるのは嫌だ、それは困るから支払うか！」というように受け止める世代はむしろ昭和世代の方々だろうと思う、若手OBOGはホームページやlineネットワーク手段で現役部員の活躍情報を知る術を持っている。若手未納者には、アスレティックフロイント郵送停止の効果はあまり効かないのではとの意見もあったが、全体の経費節約の観点も含めて、未納者へはアスレティックフロイントの郵送停止の方向で進める。

　如水会カード引落しのタイミングについて、年会費の額をどのようにするかの検討の関係で、今年は9月10日引落とせざるを得なかったが、来年は3月の決算総会終了後、関連事務手続きに要する時間を勘案してできるだけ前倒しする。引落し金額の申請書の集まり次第だが、5月末までに如水会事務局にデータを渡して7月10日引落しの線が現実的かと。

３. 検討事項

1. 新年度の新体制と女性理事について

浜田会長から以下の話が出された。理事会において７０歳定年制を採り理事会の若返りを考えている。浜田会長と岩瀬幹事長は来年３月総会で理事を退任する。昭和５７年卒の西康宏理事に新会長職を引き受けていただきたい。もともとは昭和５５年卒の陶山理事と西理事とにお願いしようと構想を建てたが、陶山理事が体調優れず無理を頼めない状態となった。新年度から理事数「１６人以内」に増やす方針もあり、女性理事増員の件も含めて新しい理事会の具体的な体制は、来年３月までに西理事に一任するので検討してもらいたい。また、長年理事会メンバーとして貢献してきた中村龍太郎理事があと１年先に退任したいと申し出ているので、彼の現在の業務（名簿担当）は井田理事に引き継いでもらい、井田理事が現在担当している「会費徴収」についてどの理事にやってもらうか等は、西理事の考えに委ねたい。

1. 会則・慶弔規定の見直しについて

規定の中で、いろいろ協議をする場面で、「副会長」の３文字を追加する。例えば、

・慶事について、叙勲などがあった場合には、会長・副会長・幹事長で協議する、の文言中に「副会長」を明記する。

・弔事について、正会員本人の弔事において、倶楽部運営に功績のあったと考えられる場合と、通常の場合とを区分して、香典の金額を前者３万円、後者１万円と改定する。従来規定の７０歳までと７０歳超という区分はなくす。功績の有無については会長・副会長・幹事長が協議し理事会に諮る、というように「副会長」を追記改定。また遠隔地居住であるとか高齢に伴い普段の連絡が薄れてきている場合はご不幸事のすぐ後に知ることができない、この点を考慮し、ご不幸事の３カ月程度以内に知った場合には１万円の香典を出す、と改定したい。

・なお慶弔規定の改定は総会の承認事項である。

1. 2023年創立100周年事業について

早い目早い目に準備を具体化していかなければならない。浜田会長がこの件はご自身が岩瀬さん他のご協力もいただきながら、統括者となって推進していく所存とご発言。

1. 水上杯について

水上杯はこれまで最高殊勲選手を表彰するものとしてきた。競歩の河野君は、大変すばらしい記録の樹立者。都留杯を既に3件資格獲得していることでもあり、今年の水上杯はできうれば河野君以外の選手で部に貢献した部員にという気持ちでいる。定成理事に学生の意見を聴いておいてもらいたい。

４．その他

陸上部の用器具管理ともつながる話だが、物品を大切に使ってほしい。ハンマー投げ囲いの周囲に危険注意喚起を目的として、赤色コーンキャップに黄色と白色の縞模様の横棒を横たわらせて「部外者立入禁止表示」を岩瀬幹事長が以前作られた。が、先日たまたまグランドへ行った際に、その横棒がすべて取り外されて足元の芝生に放置されたままの状態を発見。案の定、近所の子供たちがハンマー投げ囲いの内側まで入って遊んでおり、口頭で指導した。さらに、その子供たちが棒高跳びの方へ走って行き、マットの上で細いロープ（棒高跳びの左右のポールに本来なら結んであるロープ）で縄跳び遊びをしていたので注意し退散させた。

グランドでの危険防止（安全確保）励行と用器具の適切な保管に、毎日きちんと目を光らせてもらいたい旨学生幹部にお願いをした。

以上

　　　　　　　　　　　【メール方式にて出席理事による内容確認済み】